

令和6年度 世界農業遺産小学生作文コンクール 入選作品集



世界農業遺産小学生作文コンクールについて

1…目的

次代を担う小学校第5学年及び第6学年を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く世界農業遺産に対する関心を高め、理解を深める。

2…課題

「私のふるさとの世界農業遺産」(題名は自由)

3…応募数

国東半島宇佐地域内(豊後高田市・杵築市・宇佐市・国東市・姫島村・日出町)の小学校23校より83点

最優秀賞

国東市立旭日小学校……………6年 ^{まつもと}松本 ^{みゆ}海優
「私の大好きな魚も育てる農業遺産」

優秀賞

国東市立国東小学校……………5年 ^{きら}吉良 ^{やまと}大和
「国東半島宇佐地域のため池」

豊後高田市立田染小学校……………6年 ^{こうの}河野 ^{わこ}環子
「私をとりまく世界農業遺産の環」

入選

豊後高田市立田染小学校……………6年 ^{みちわき}道脇 ^{あやの}綺乃
「シイタケ体験をしてから」

杵築市立護江小学校……………6年 ^{おか}岡 ^{そうた}奏太
「素晴らしい循環」

国東市立富来小学校……………6年 ^{もり}森 ^{あんな}安奈
「ため池の大切さ」



最優秀賞「私の大好きな魚も育てる農業遺産」

まつもと みゆ
松本 海優 (国東市立旭日小学校 6年)

国東半島は世界農業遺産だと、小学校低学年の頃に初めて聞きました。なんだか難しい感じで、農業よりも魚釣りが好きな私にはあまり関係ないことかなと思っていました。

しかし、実は私の大好きな魚も、農業遺産のおかげで元気に大きく育てているのではないかと気づくことができました。

一年前に、佐伯市の水産のイベントで『ウオツキリン』という言葉を知りました。最初は何のことだかわかりませんでしたが、先生の説明では魚が育つ良い海にするためには、森を育てることが大切で、豊かな森からはたくさんの栄養分が川に流れ、その川の水が海に流れることでプランクトンが増え、そのプランクト

ンを食べて魚が増えていくと教えてもらいました。このような森のことを『魚付き林』と呼ぶそうです。その豊かな海を実感するためにみんなで地引網をしました。みんなで頑張って網を引くと、今まで釣ったことがない平アジ、ダツ、アオリイカなど、いろんな魚が大量に獲れて、佐伯の海が魚にとって良い環境になっていると感じました。釣り好きな私は国東半島でも魚付き林を増やし、いろんな魚が国東の海でもたくさん増えてくれたらいいなと思いました。

今回、農業遺産について調べていくと、ため池とクヌギの木の話がたくさん見つかりました。農業をするための必要な水を確保するためにため池を掘り、大小たくさんのため池をつないで水を大切に使ってきたこと。また、国東半島はシイタケがたくさん栽培されていて、そのシイタケはクヌギを使ってそこに種菌を植え付けて、シイタケを育てると書いてありました。

三年くらい前に、私はシイタケのこま打ち体験をしました。シイタケをたくさん栽培するには、クヌギの木をたくさん植える必要があるのだと知りました。クヌギの木を育てると葉が落ち、微生物が分解して養分になり、それがため池にたまって、下のため池にどんどん移動していき川に流れて、最後は海に出る。そして、プランクトンが育って、そのプランクトンを食べる魚が育っていく。国東でも、魚付き林と同じ取り組みがされていることに気づきました。しかもこの魚付き林が、シイタケという産業にもつながっていることが、国東半島の特徴なのだと思います。

私は、たくさんクヌギの木を植えることができないけど、お父さんと一緒に作っている畑にブルーベリー、ツバキ、サカキ、ゲッケイジュなど20本植えることができました。この木が育ち、葉っぱが落ち、それが分解されて川から海へ行くようになったら、少しは豊かな海づくりに貢献できるかなと思いました。これが、この国東半島に住む私なりの世界農業遺産の取り組みです。



優秀賞「国東半島宇佐地域のため池」

きら やまと
吉良 大和 (国東市立国東小学校 5年)

国東半島宇佐地域が世界農業遺産に登録されたということを初めて知ったのは、総合的な学習の時間でした。教室のモニターに、クヌギやアサギマダラなど5枚ほどの写真が映し出されて、先生から「これは、全て関係があります。それは何でしょう。」と聞かれました。ぼくはしばらく迷いました。正解は世界農業遺産に関係していると言われたときに、ぼくは「世界農業遺産って何だろう」と疑問に思いました。さらに、「世界的に重要な農業の遺産システム」であることを聞いて、自分の住んでいる地域が、世界的に重要な場所だと聞いて、うれしくもあったし、びっくりもしました。

その中のため池について興味がわいて、ため池がどこにあるのか、どのくらいの大きさなのかなど、考えるようになりました。ぼくの家の前山にも、池があるこ

とは昔から知っていました。学校のプール5~6個分くらいの大きさで、かなり広い池です。調べてみると、その池もため池であることがわかりました。ぼくの中では、身近に池があることは当たり前だと思っていたけど、ほかの地域では、そう当たり前でないことも知りました。国東半島宇佐地域はもともと雨が少ない、さらに地形の真ん中に両子山という山があり、海までの距離も短く、降った雨もすぐに海に流れ出てしまうため、水をためておく必要があったそうです。だから、江戸時代から池に水をためておくという知恵でため池が作られたそうです。

ぼくたちの生活を支えてくれていることも知り、心配なことが出てきました。1つ目は、このため池を管理している池守りの跡つぎがいるかどうかです。国東市では、高れい化が進んでいるからです。お年寄りが増えたら、池まで歩いたり管理をしたりするときに、体がきつくて思うようにできないことも考えられます。2つ目は、ため池が崩れることがないかどうかです。今年の夏、集中ごう雨で川がはんらんしたり土砂崩れがあったりと悲しいニュースをたくさん見ました。自然災害のえいきょうでため池がこわれ、修復することができるかどうか不安に思います。

江戸時代から続いてきたこの大切なため池をこわさないようにするためには、今後の自分たちの行動が大切だと思います。環境を考えることも、ため池を守ることに繋がると思います。ぼくの生活の中で、毎日ご飯や野菜が食べられるのも、このため池のおかげです。ため池を守ってくれている人たちだけでなく、水を使った産業をしてくれている人たちや、先人の知恵に感謝の気持ちを忘れず、毎日を過ごしていきたいです。



優秀賞「私をとりまく世界農業遺産の環」

こうの 河野 わこ 環子（豊後高田市立田染小学校 6年）

私は六郷満山のあるお寺の長女として生まれました。お父さんはわたしに、「環」という字を授けてくれました。どうしてこの漢字を使ったのか聞いたことがあります。お父さんは、「雨が降って、川になって海になり、木に茂る葉っぱは、秋になり落ちて、土になって、その栄養で木が育つ。命の流れが輪っかの様で、それを表す漢字が環なんだよ。」と教えてくれました。林先生（国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長）はクヌギ林の循環とシイタケ栽培から始まり、世界農業遺産の目的は、国東半島宇佐地域の農林水産業の輪が地域のシステムとして次世代に受け継ぎ、守っていくためだと教えてくださいました。それが私の字の由来と似ていて、とても興味深かったのを覚えています。

お坊さんである私のお父さんは、年に一度鬼になります。あまり普段怒ったりしないお父さんだけど、天念寺の鬼会というお祭りでとても怖そうな鬼になります。伝統的な鬼会というお祭りです。鬼会は、鬼が人を怖がらせるのではなく、「五こく豊じょう」を願うお祭りだということも知りました。

私が住んでいる国東半島宇佐地域にあるお寺のお坊さんから「この辺の田んぼは大昔、お寺のお坊さんたちが開拓して、農業をさかんにするために神様や仏様にお祈りをして、発展していったんだよ」と聞いたことがあります。昔から、農業も動物も水も環境を生んで時代と共に受け継がれています。先人たちが築いた「循環システム」なんだと感じました。伝統を受け継いでいくことは素晴らしい遺産を守ることにつながる。私たちの先祖が築いた「地域のシステム」を、私たちはもちろん、その次の世代までバトンを渡すことが私たちにできることであると思いました。

そんな素晴らしい遺産に囲まれた場所で生活ができることに感謝しながら、私なりのSDGsを探っていきたいと思いました。



入選「シイタケ体験をしてから」

みちわき 道脇 あやの 綺乃（豊後高田市立田染小学校 6年）

私は、3年生の時に学校の近くにある竹中さんというシイタケ農家さんの山で、こま打ち体験をしました。当時の私は、ただ「楽しいな」という気持ちだけでした。

5年生になって、ほだ場にある木が学校にとどきました。あの木で本当にシイタケができるのかな？と少しうたがっていましたが、シイタケができるかな？というワクワクも心の中にもありました。そして日がたっていくうちに、どんどんシイタケができてきました。私は、「どうやってあの木からこま打ちをしただけで、できるんだろう。」と興味がわきました。

そんなある日、国東半島シンポジウムで世界農業遺産を調べて、発表することになりました。そして私たちは、シイタケのことや循環のこと、ため池などを調べました。シイタケはシイタケさいばいを行うためのクヌギ林の輪が必要なことがわか

りました。ため池がもたらす水の循環があることでたくさんの海の生物が育ち、田畑をうるおし、農作物を育てることができます。そして、ため池にはクヌギ林の落ち葉が必要ということもわかりました。クヌギ林の循環と、ため池がもたらす水の循環が連携するおかげで、受けつがれる農耕文化や多様な生態系、すばらしい景観に乾シイタケやお米などの農林水産物が育ちます。これが農林水産の輪であることもわかりました。その結果、山間部中心の土地から、雨水を大事に貯めていくという方法が、結果的に良い循環を生み、時代と共に受けつがれていきました。

わたしたちは、これら世界農業遺産はSDGsと関係があると考えました。私が考えたのは、目標 **12** のつくる責任、つかう責任です。これは循環に関係すると考えました。循環は、あまりガスなどを使わないし、クヌギは伐採しても切株からほうがして再生します。木は、二酸化炭素を吸い、酸素を出すことができます。なので、環境に良いと思います。循環は目標 **2** の飢餓をゼロに、にも関係があると思います。理由は、ため池がもたらす水の循環があると、魚や農作物が育っていくからです。農林水産の輪があることで、多様な生態系が守られ、すばらしい景観が残り続くことで、**15** 陸の豊かさが守られていると思います。その上、たくさんの海の生き物が育つことで **14** 海洋資源も守られると思います。

長年かけて先人たちが築いた「循環システム」、それは世界にほこれる農林水産物を育み、文化や景観を守る大きな輪になりました。そして6つの市町村全てが循環に関わりをもっています。まとめるとクヌギ林が食べ物を産み、ため池が文化を産むということです。

私はこれらのことを勉強して、こんなに世界農業遺産はすごいものだとわかりました。私はこのようなことを知る前は、世界農業遺産がこんなに良いものとは知らなかったし、何年も受けつがれて大切なものとわかりました。これからもきちんと受けつがれて大切にしてほしいです。



入選「素晴らしい循環」

おか そうた
岡 奏太（杵築市立護江小学校 6年）

ぼくが、「木は食料を産む」を読んで驚いたことが、クヌギ林とため池の循環についてです。国東半島宇佐地域での循環システムがあると知り、大分県に住んでいて誇らしい気持ちになりました。

ぼくは以前、学校で「シイタケのコマ打ち体験」をしました。その際、クヌギの木のことを知りました。その時は、ただ何となく知っただけでしたが、本を読んだことで、クヌギの木がシイタケの採取をした後、朽ちて土にかえり、ため池との循環を産むのだと改めて気づかされました。そして、それが豊かな水産資源を生み出すと知ってとても驚きました。

そこで、僕は学校や家の周りにため池がたくさんあることを思い出し、ため池を

調べてみることにしました。すると、学校の近くに下新溜池がありました。ほかにも、小学校の周りにはいくつかのため池があることがわかりました。このことからぼくは、普段食べているお米は、ため池のおかげだと感心しました。ため池は改めて大切なのだと実感しました。さらに調べを進めると、ため池は農業だけではなく、多様な生息や生育にも関係していることがわかりました。調べれば調べるほど、ため池が自分たちの生活に深く関わっているのだということに気づかされました。

今回ぼくは、「木が食料を産む」の本を読んで、世界農業遺産に興味を持つことができました。そのためぼくは、普段の生活から、ため池があるおかげでお米などの農林産物を食べることができているのだという感謝の気持ちをもって生活していきたいと思います。また、昔の人たちがしてきた工夫のおかげで今があることを知り、大切にしていきたいとも感じました。

そのため、ため池に水を多く保つためにも自身の日々の生活を見直していきたいと思います。例えば、環境を大切にするため、ゴミのポイ捨てをしない。普段の生活で水の無駄遣いをしない等、ささいだけれどできることがたくさんあると思います。それらのことを日々実践して生活し、環境に良い行動をしていきたいです。

最後に、「木が食料を産む」の本を読み、大切にしたいと感じた言葉があります。それは、「受け継ぐ」という言葉です。ぼくは、今回をきっかけに、ため池やクヌギ林のことを知ることができました。そして、自分の生活の改善を考えるようになりました。これがぼくの中での「受け継ぐ」ということだと思いました。受け継ぎ、行動することで、国東半島宇佐地域の世界農業遺産を守っていきたいと思います。



入選「ため池の大切さ」

もり あんな
森 安奈（国東市立富来小学校 6年）

私は夏休み、毎日お父さんと一緒に、畑のお仕事をしていました。去年は長い雨が降って作物がダメになったから、今年は頑張って、管理機でうねをたてました。管理機は重くて動かすのが大変でした。暑くて汗もたくさんかきました。長ネギを妹と一緒に植えたこともあります。ネギを一本一本植えたから、腰が痛くなり足がしびれました。大豆の種をまいたときは、気温が40度近くあったから、たくさん汗をかきました。汗が目に入ってすごく痛かったです。大豆の周りの草を切って土が乾かないようにしていく作業は、とてもつらかったです。美味しい焼きいもが食べたくて、サツマイモは雨の天気予報の前に、慌てて暗い中苗を植えました。でも次の日は雨が降りませんでした。すごく楽しみにしていたのに残念です。

今年はすごく気温が高くて、梅雨明けから一か月以上雨が降らなかったです。そのため8月後半に作物が、全部枯れてしまいました。隣の田んぼも、水がなくて全部枯れています。途中作物が枯れないように水やりをジョウロで何往復もしたけど、土はすぐに乾いてしまい頑張ったけど枯れてしまいました。しかし、全部悪いことだけではありませんでした。いつもハウスの中でねぎを作っています。今年はハウスの中が50度以上あり、たくさん汗をかきました。草取りをされていて外に出ると涼しく感じました。この夏休みでだいぶ暑さに強くなりました。

私は去年、世界農業遺産のため池について勉強しました。昔の人がため池を作ったのは、作物を作るときに必要な水を確保するためです。自分で農業して思ったことは、作物を作るのに水がないと育たないこと、暑すぎて枯れてしまうことを経験しました。昔の人たちも水がなくて困ったからため池を作ったのだと思います。昔に作ったため池が今でも使われているからおどろきました。

去年は7月に大雨が降ってしまって、作物がダメになったけど、今年は水がなくて作物が枯れてしまいました。毎年気候がちがうから、来年はどうなるかわからないので不安です。気候が変わっているのは、環境をはかいしたせいかもしれません。

私は大人になったら農業をしたいです。農業は大変だけど、環境をこわさないで、生き物がたくさんいる畑で、美味しい作物を作って皆に食べてもらいたいです。これからも学校の勉強と、農業の勉強を頑張ります。そして楽しさを伝えながら自然を守っていきたいです。そして昔ながらの農業を、次世代の人たちに教えていきたいです。

世界農業遺産（GIAHS）とは？

Globally 〈世界的に〉 Important 〈重要な〉 Agricultural 〈農業の〉
Heritage 〈遺産〉 Systems 〈システム〉

食糧の安定確保を目指す国際組織である、国際連合食糧農業機関（FAO）が2002年に開始したプロジェクトで、次世代に受継がれるべき伝統的な農業・農法とそれに関わって生まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システム（林業及び水産業を含む。）を認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。

世界農業遺産認定基準

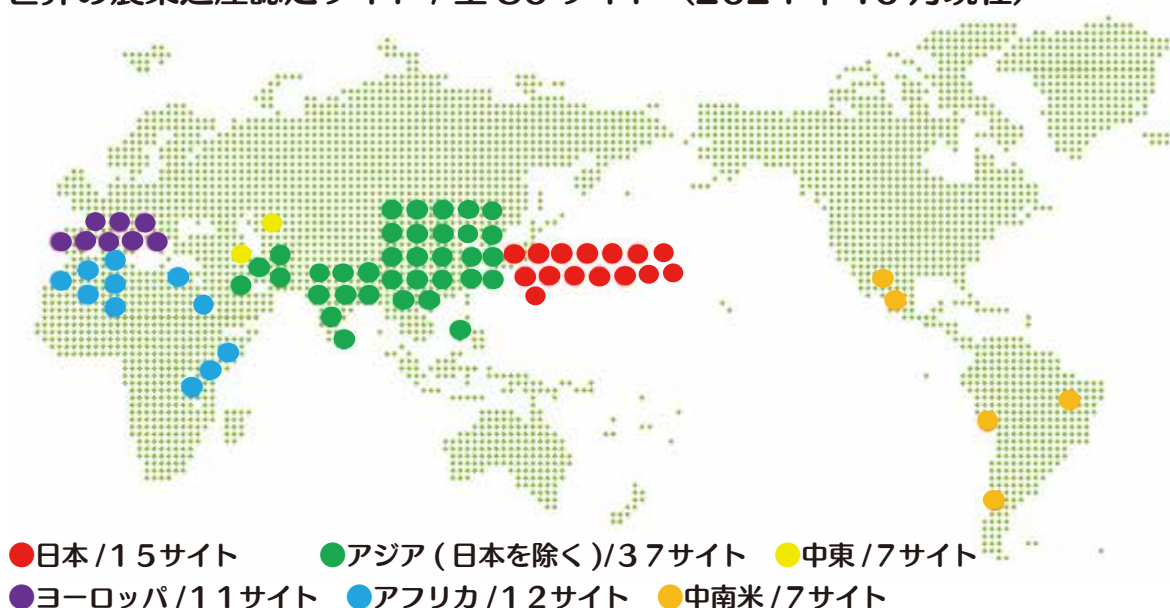
【申請地域の特徴を評価する5つの認定基準】

1.食料及び生計の保障	2.農業生物多様性	3.地域の伝統的な知識システム	4.文化、価値観及び社会組織	5.ランドスケープ及びシースケープの特徴
申請する農林水産業システムは、地域コミュニティの食料及び生計の保障に貢献するものであること。	申請する農林水産業システムは、食料及び農業にとって世界的に重要な生物多様性及び遺伝資源が豊富であること。	地域の伝統的な知識システムが、「地域の貴重で伝統的な知識及び慣習」、「独創的な適応技術」及び「生物相、土地、水等の農林水産業を支える天然資源の管理システム」を維持していること。	申請する農林水産業システムには、地域を特徴付ける文化的アイデンティティ、風土、資源管理や食糧生産に関連した社会組織が存在すること。	長年にわたる人間と自然との相互作用によって発達してきたランドスケープやシースケープを有すること。

※ランドスケープ：土地の上に農林水産業の営みを展開し、それが呈する一つの地域的まとまり。
※シースケープ：里海であり、沿岸海域で行われる漁業や養殖業等によって形成されるもの。

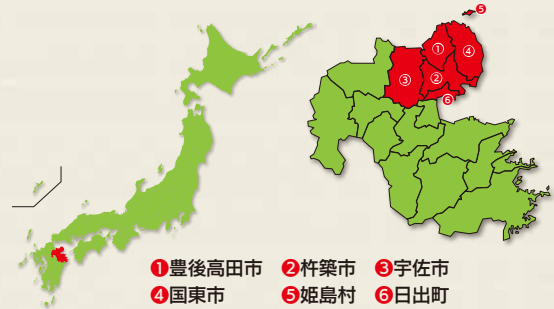
世界農業遺産認定サイト

世界の農業遺産認定サイト / 全 86 サイト（2024 年 10 月現在）



クヌギ林とため池によって持続的に維持されている、 日本一の原木しいたけ生産をはじめとする農林水産業システム

降水量が少なく耕作に必要な水が不足する地域に1,200以上のため池を造り、連携させた用水供給システムを確立し、水稲や国内唯一のシチトウイ栽培に計画的に配分している。また豊富にあるクヌギ林を利用した日本一の原木しいたけ栽培は水田農業を補い、森の保水性を維持し、ため池とともに貴重な給水源となり多様な生態系を育てている。先人たちが営々と作り上げてきたこのクヌギ林とため池による「循環型の農林水産業」の営みが世界的に価値のあるものとして認められた。



地形的制約が生んだ「ため池」を
複数連携させた用水供給システム



複数連携式のため池群管理システム

国東市綱井地区では、6つのため池を連携させたシステムが江戸時代から今日まで運用されています。最上流にある高雄池(たかおいけ)は水稲の育成後期用として貯水され、それまでの期間は、中流域の3つと下流域の2つのため池が保水し合って給水します。



美迫池(みさこいけ)(国東市)

この地域では、用水供給システムを継続的に運用するための知識と経験の伝承が行われています。ため池に関する操作や管理を委ねられた「池守り(いけもり)」という役割があり、水田の水の受給の平準化と少ない水を効率よく公平に使うための取水管理が行われています。両子山頂から放射状に広がる河川のそれぞれで、このシステムが維持管理されていることが、この地域の水田農業の特徴です。

クヌギの循環システムと食料生産システム



しいたけ生産へ原木を供給

クヌギ林の管理と原木しいたけ栽培

クヌギは、伐採しても切り株から萌芽して再生するため、木材資源が循環するという優れた特性を持っています。植林されたクヌギ林は、適正な管理を経て約15年後に原木しいたけ栽培に適したサイズとなります。成長した樹は秋に伐採され、しいたけ生産へ供給されます。伐採後のクヌギの切り株からは翌春新芽が萌芽し、成長に必要な日照と養分を確保するため下草刈りが行われます。刈られた下草は、次世代の下草の成長を抑えつつ、ゆっくり分解しながらクヌギの成長を助ける養分となり、さらに、落ち葉やしいたけ栽培で使用を終えた原木も腐植してミネラル豊富な土となり、膨軟な保水層を形成します。また、萌芽から2~3年後には、成長を促進するために目の数を2~3本残すように整理を行い、やがてクヌギ林は伐採から約15年後に原木として利用できる大きさに再生します。

駒打ち



伏せ込み



ほだ場へ移動



発生、採取



次世代への継承の取組

次世代継承教育事業

地域の自然環境や伝統文化、農林水産業、景観等についての探究的・協働的な学習を通して、地域が抱える現状と課題を明らかにし、その課題の解決に向けて主体的に考え行動する力を育成するとともに、地域と自分とのかかわりを考えながら積極的に行動しようとする態度や郷土を愛する心を育てる。

(対象：国東半島宇佐地域の全小・中学校及び義務教育学校)

各小学校等の取組(全59校)

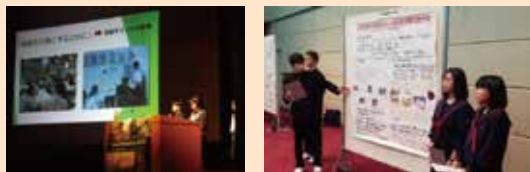
- 世界農業遺産について探究的に学ぶ
- 体験活動の支援
- 教材本の活用(世界農業遺産を知る)
- **高学年を対象とした作文コンクール**
(興味関心を高める)



小学生向け教材本

各中学校等の取組(全23校)

- ☆パンフレット、プロモーションビデオ活用を活用した世界農業遺産の学習
- ☆ゲストティーチャーを招聘した講話や体験活動
※ゲストティーチャー：世界農業遺産に関わる地域の方
- ☆世界農業遺産に係る探究学習
(インタビュー、発信等)
- ☆プレゼンテーション、レポート等で報告・発信
(中学生サミットにおける発表 等)
- ☆学校行事、学校ウェブサイト等で報告・発信



中学生サミットにおけるステージ発表とポスターセッション

高校生「聞き書き」事業

「しいたけ」や「シチトウイ」生産者など「地域の名人」を訪ね、その知恵や工夫、思いなどをインタビューし、「聞き書き」の手法を用いてまとめる。そのことを通じて世界農業遺産に認定された価値や故郷の素晴らしさを見いだす。

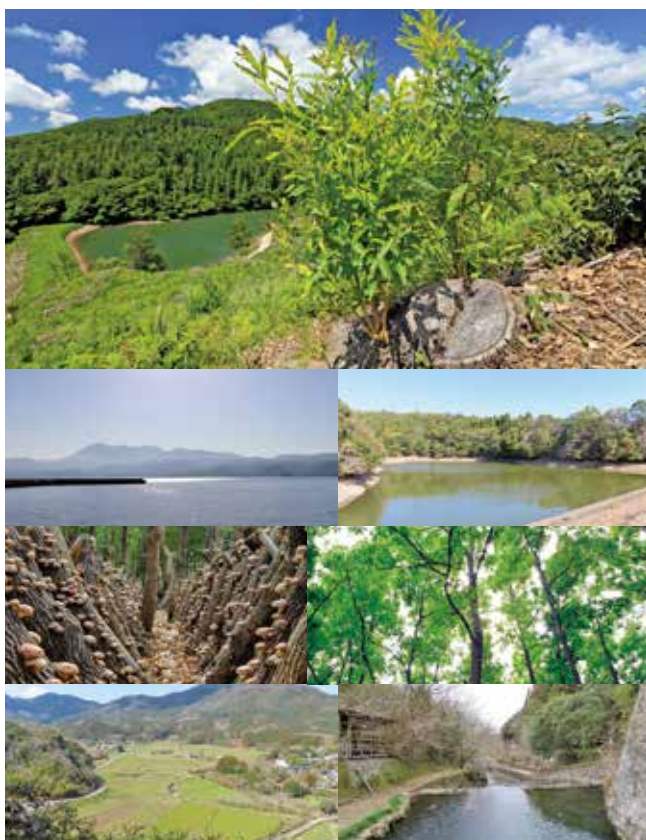
※聞き書き：話し手の言葉を録音し、一字一句すべてを書き起こしたのち、話し手の語り口で一つの文章にまとめる手法。「聞き書き甲子園」(主催：農林水産省、文部科学省、環境省、特定非営利活動法人共存の森ネットワーク等)で用いられている。



地域の名人への取材の様子



高校生「聞き書き」作品集



表紙・各作品冒頭写真紹介

- ① クヌギとため池
- ② 別府湾
- ③ ため池(美迫池)
- ④ ほだ場
- ⑤ クヌギ林
- ⑥ 田染荘
- ⑦ 豊後高田岩屋

令和6年度
国東半島宇佐地域世界農業遺産
小学生作文コンクール入選作品集

令和7年1月 発行

発行者:国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会

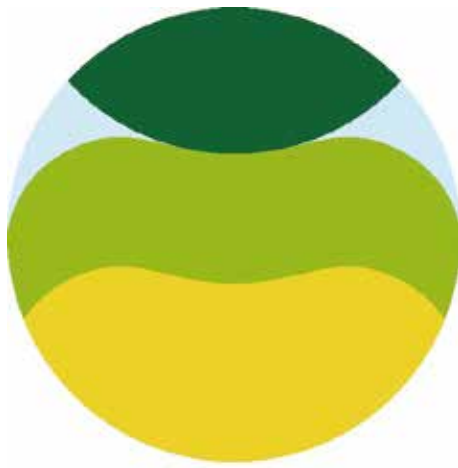
【事務局】大分県農林水産部農林水産企画課世界農業遺産推進班

〒870-8501 大分県大分市大手町3-1-1 TEL.097-506-3525

印刷:株式会社明文堂印刷

禁無断転載 複写

※表紙及び作品の写真については、国東半島宇佐地域世界農業遺産写真コンテスト及び国東半島宇佐地域世界農業遺産フォトコンテストの作品等です。



国東半島宇佐地域
世界農業遺産

Kunisaki Peninsula Usa GIAHS